

ὑπερψόω

ヒュペルプソオー

知っておきたいキリスト教のことば (71)

高挙 こうきよ

日本聖公会の聖餐式では、礼拝の中で「ニケヤ信経」(ニカイア・コンスタンティノポリス信条)を唱えます。その中に、このような一文があります。

主はわたしたち人類のため、またわたしたちを救うために天から降り、聖霊によっておとめマリヤから肉体を受け、人(ひと)となり、ポンテオ・ピラトのもとで、わたしたちのために十字架につけられ、苦しみを受け、死んで葬られ、聖書にあるとおり三日目によみがえり、天に昇り、父の右に座しておられます。

四つの福音書には、イエス様は十字架につけられて葬られたのち、復活したと書かれています。また使徒言行録には、復活したイエス様が40日後に天に上げられ、さらにその10日後に聖霊が降される場面が描かれています。

この「天にあげられた」出来事を、「高挙」と呼びます。その漢字のとおり、「高く挙げられる」という意味です。つまり復活後のイエス様が昇天された出来事を高挙と呼ぶのです。

ではわたしたちにとって、イエス様が天に挙げられたこの出来事は何を意味するのでしょうか。パウロはローマの信徒への手紙6章4節で次のように書きます。

わたしたちは洗礼によってキリストと共に葬られ、その死にあずかるものとなりました。それは、キリストが御父の栄光によって死者の中から復活させられたように、わたしたちも新しい命に生きるためなのです。

わたしたちはイエス様の十字架と復活によってキリストと一体になり、そしてついにキリストと共に挙げられます。そのために、神さまはイエス様を受難へと導かれたのです。

次回は「傲慢」です。お楽しみに。



「天に昇るキリスト」
レンブラント・ファン・レイン
(1606～1669年)

このため、神はキリストを高く上げ、あらゆる名にまさる名をお与えになりました。

(フィリピの信徒への手紙2章9節)

